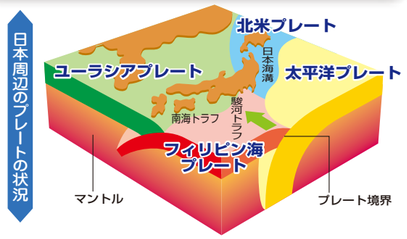
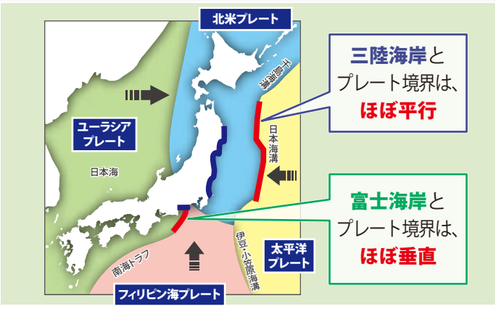
津波

東日本大震災では、数々の津波災害の映像が報道されました。これにより、富士市を襲う津波も、東日本大震災と同じ津波をイメージしてしまいがちです。しかし、襲う津波にも“地域性”があります。富士市を襲う津波の特徴とはどのようなものでしょうか。

津波発生のメカニズム



東日本大震災との比較から学ぶ富士市の津波の特徴

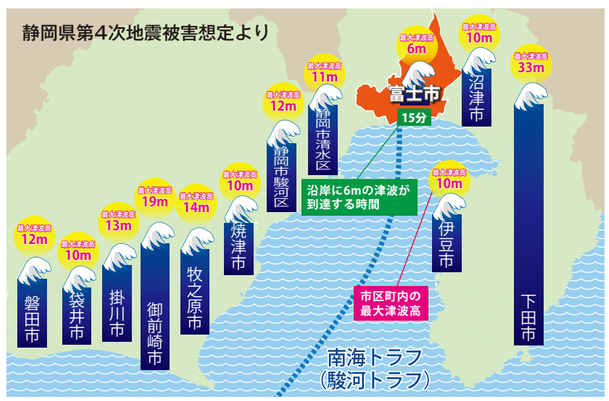


東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）を引き起こしたプレート境界（日本海溝）と東北地方の太平洋沿岸は「ほぼ平行」の位置関係にあります。一方、南海トラフ地震（東海地震）を引き起こすと想定されている南海トラフ（駿河トラフ）と富士海岸の位置関係は、ほぼ垂直です。

津波は、プレート境界に対して、平行な位置関係にある海岸で高くなる特徴があるため、東日本大震災では甚大な津波被害がもたらされました。一方、駿河湾内で発生した津波も、平行方向に伸びる海岸では高くなりますが、垂直方向に伸びる富士海岸では、高くなりにくい傾向があります。

次に到達時間の特徴です。東日本大震災では、陸地から離れた沖合いを震源域にして地震が発生したため、津波到達まで比較的時間の余裕がありました。

一方、南海トラフ地震（東海地震）は私たちの暮らすすぐ近くを震源に発生するため、津波が発生する場所も陸地の近くになります。このことから、地震発生から津波到達までの時間は非常に短くなることが想定されています。



富士市の津波の特徴

高くなりにくいが、到達時間が非常に短い！

沿岸への到達時間　1m：3分　6m（最大波）：15分

富士市の津波浸水の特徴

富士市は、海岸付近に海抜8m以上の高台が広がる特殊な地形をしているため、津波は海岸線からではなく、田子の浦港から入り、港や周辺の河川から浸水すると想定されています。

このため、場所によっては海に向かって避難する方が津波避難対象区域から出やすい場合もあります。

富士市の津波避難対象区域

津波浸水想定区域とその周辺50m（バッファゾーン）

※津波避難対象区域はP31以降でご確認ください。

津波からの避難

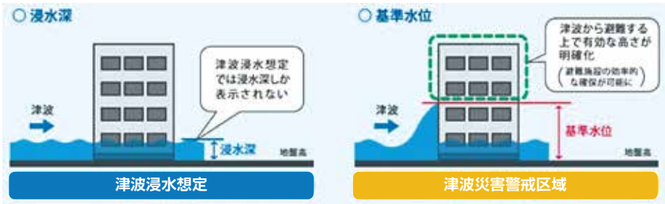
津波避難の原則は、“津波避難対象区域から出る”ことです。津波からの避難先を考える際、津波避難ビル・タワーへの避難を思い浮かべる方も多いですが、建物への避難は、揺れによる被害や津波火災等によるリスクを伴います。あくまでも、津波避難対象区域から出ることを最優先とし、津波避難ビル・タワーへの避難は、時間的な猶予がない場合の最終手段と考えてください。また富士市は、津波の到達時間が非常に短いため、あらかじめ各自で避難目標地点を設定しておきましょう。

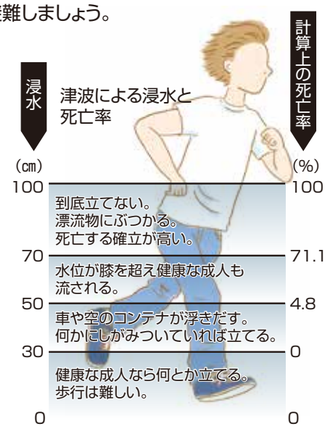
なお、津波の浸水深が50cmでも、人は簡単に流されてしまいます。さらに、1mの津波に巻き込まれると、死亡率はほぼ100%と言われています。万が一、逃げ遅れた場合には、近くの建物の上層階に避難しましょう。

●津波災害警戒区域

令和5年3月に津波災害警戒区域が指定されました。指定に伴い、基準水位が公表されています。富士市ウェブサイト、静岡県GISから確認できます。

【浸水深と基準水位】





津波注意報・警報の種類

富士市では、津波警報等が発表された場合、“避難指示”を発令します。しかし、大きな揺れを感じたら、情報を待たずに避難を開始しましょう。

注意報・警報	避難指示の対象
6m 大津波警報 3m<予想高さ	津波避難対象区域を含む町内会（区） □元吉原地区：鈴川本町、鈴川町３ 鈴川町４、鈴川町５ □今泉地区：依田橋 □田子浦地区：前田、前田新田、鮫島 田子、小須、中丸浜 中丸丘、江川
3m 津波警報 1m<予想高さ≦3m	
1m 津波注意報 0.2≦予想高さ≦1m	□漁業従事者 □海岸付近にいる方　等

富士市津波避難マップ

平成26年4月、津波浸水想定区域等がある元吉原地区、田子浦地区、今泉地区の一部に富士市津波避難マップを配布しました。

また、これらのマップは、富士市ウェブサイトで閲覧できます。

平常時から避難目標地点や避難経路を確認し、防災訓練には実際に避難目標地点への避難訓練を取り入れましょう。